

JAPAN JOURNAL OF GOLF EDUCATION

ゴルフ教育研究

Vol.6 No.2

CONTENTS

《論文》

学生時代及び卒業後のゴルフ経験とゴルフへの意識に関する研究

—1970～2014 年に国内の大学を卒業した 1,800 人に対する全国調査より—

小林 勝法, 北 徹朗 13

《報告》

韓国ゴルフ大学の現状と将来性

朴 雄, 小林 勝法, 関 允淑 22

コロナ禍のゴルフ授業—感染防止ガイドラインに沿った授業実施報告—

鈴木 タケル, 北 徹朗 30

【投稿規定】 i ~ v

大学ゴルフ授業研究会

Volume6, Number2 February 2021

【論文】

学生時代及び卒業後の
ゴルフ経験とゴルフへの意識に関する研究
—1970～2014年に国内の大学を卒業した
1,800人に対する全国調査より—

小林 勝法(文教大学) 北 徹朗(武蔵野美術大学)

Graduates' Experience and Consciousness for Golf
in and after Graduating from College

Katsunori Kobayashi (Bunkyo University)

Tetsuro Kita (Musashino Art University)

大学あるいは短期大学の卒業生が、学生時代と卒業後にどのようなゴルフの経験とゴルフへの意識を持っているかを明らかにするためにアンケート調査を行った。調査対象は、大学・短大を1970年から2014年に卒業した人とし、男女900人ずつ、合計1,800人から回答を得た。居住地は全国であった。アンケート調査は、インターネット調査を専門とする業者に委託し、2018年11月に実施した。その結果、以下に示す結果が得られた。

1. 正課体育でゴルフを履修した男性は8.7%で、女性は5.4%であった。
2. 在学中に授業外でゴルフを実施した男性は8.8%で、女性は4.3%であった。正課体育でゴルフを履修した学生が、在学中に授業外でも実施した比率は、男性が61.5%、女性が49.0%であった。一方、授業でゴルフを履修していない学生はほとんどゴルフをしていない(男性4.6%、女性1.6%)。自由記述回答からは、授業履修がきっかけとなり授業外でも実施したケースが確認された。
3. 卒業後にゴルフを実施した人は、男性が29.7%で、女性が11.1%であった。正課体育でゴルフを履修した学生が、卒業後も実施した比率は、男性が53.8%で、女性が26.5%であった。授業でゴルフを履修していないが卒業後に実施した人は、男性で30.7%、女性11.2%であった。男女ともにゴルフ履修者の方が卒業後の実施率も高かった。自由記述回答からは、授業履修がきっかけとなり卒業後も実施したケースが確認された。

以上から、ゴルフの履修の有無が、在学時および卒業後のゴルフ実施に影響していることが推察された。しかし、その影響の大きさや因果関係については、本調査では解明できなかった。

キーワード：大学、短期大学、正課体育、履修、授業外

論文

はじめに

スポーツの種目別・年代別参加率は「レジャー白書 2019」によると、男性の「サッカー」と「バスケットボール」、女性の「バドミントン」と「バレーボール」は、10代の参加率は29.0%~49.0%と高く、人気のスポーツであるが、20代で急激に減少し、40代以降は5%を下回る¹⁾(図1、2)。これらのスポーツは、運動強度が高いため生涯にわたって継続して行うのは難しいスポーツであると言える。一方、男性の「ゴルフ(コース)」と「ゴルフ(練習場)」は10代の参加率はそれぞれ2.0%、3.0%と低いが、20代以降は徐々に高まり、40代以降はどちらも10%を超えている。女性の場合は、ゴルフ参加率はどの年代も5%以下にとどまっているが、他のスポーツ種目に比べると高齢になっても参加できるスポーツである。したがって、生涯にわたって行うスポーツとしてゴルフはふさわしく、大学体育の教材としても適していると考えられる。

ゴルフを始めるのは大学卒業後というケースが多いが、ゴルフの授業を開講している大学は2014年の調査では延べ581大学にも達している²⁾。果たして、授業でのゴルフ経験は、在学中や卒業後の実施にどのように影響しているのだろうか。

大学のゴルフ授業に関する研究は多数あるが、授業外や卒業後のゴルフ実施に関する報告は見あたらない。これに関連する先行研究では唯一、大学・短期大学卒業生を対象として、ランニングやゴルフなどを実施している25歳から39歳の女性を調査(2014年実施)したものがあ³⁾。これによると、正課体育でゴルフを履修した55人の内、21人(38.2%)が卒業後も実施して

いたという。なお、この調査は、全国の居住者を対象にしているが、特定の年齢の女性に限定している。

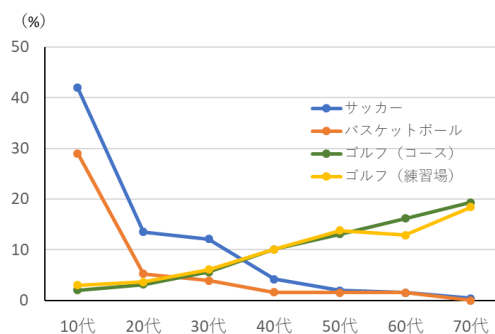


図1 スポーツ種目別・年代別参加率(男性)
(レジャー白書 2019 より著者作成)

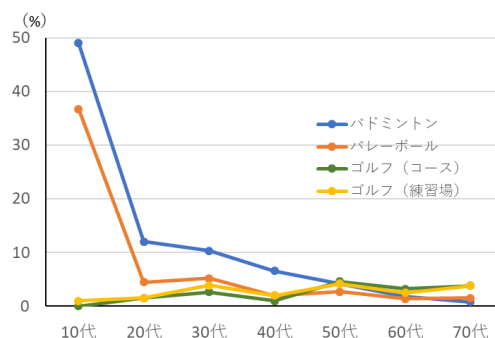


図2 スポーツ種目別・年代別参加率(女性)
(レジャー白書 2019 より著者作成)

そこで、本研究では調査対象に男性も含め、年代も広げて、大学卒業生の学生時代及び卒業後のゴルフ経験とゴルフへの意識を明らかにするためにアンケート調査を実施した。

1. 目的

本研究の目的は、大学あるいは短期大学の卒業生が、学生時代と卒業後にどのようなゴルフの経験とゴルフへの意識を持っているかをアンケート調査によって明らかに

することである。特に、正課体育、すなわち一般教養などの体育実技(スポーツ演習なども含む)でのゴルフの履修の有無が、在学時および卒業後のゴルフ実施にどのように関係しているかについて、定量的および定性的に分析する。

2. 方法

1) アンケート調査の対象

調査対象は、大学・短期大学を1970年から2014年に卒業した人とし、居住地は全国とした。卒業年の5年刻み毎にグループ化し、各グループとも男女100人ずつ、合計1,800人から回答を得られるようにした。

2) 調査内容と方法

調査内容は、正課体育や在学時、卒業後のスポーツなどの経験とそれらに対する意識であった。具体的には以下の通りである

体育実技の履修の有無、履修したスポーツ種目、在学中や卒業後に実施したレジャースポーツ種目、スポーツを一緒にした人、所属したクラブ・サークル、現在の運動習慣、自由記述

調査は、インターネット調査を専門とする業者に委託し、2018年11月12日から15日の期間に実施した。調査名は「一般学生の在学中及び卒業後の体育・スポーツ経験に関する調査」であった。委託した調査会社は、(一財)日本情報経済社会推進協会よりプライバシーマーク使用を許諾された事業者であり、個人情報の取り扱いは適正に行われていると判断した。また、調査会社から提供を受けたローデータには個人を特定できる情報は含まれていない。

3) 統計処理および分析方法

ゴルフの経験とゴルフへの意識について、正課体育と在学時、卒業後に分けて、性別、

卒業年代別に集計し、それぞれの特徴を明らかにした。

①正課体育でのゴルフの履修

大学の正課体育の授業として履修した比率を性別および年代別に算出し、その特徴を明らかにする。比率の差の検定はカイ二乗検定を用い、有意水準は1%とした。

②在学中のゴルフの実施

在学中の授業以外でのゴルフ実施率を性別および年代別に算出し、その特徴を明らかにする。さらに、正課体育でのゴルフ履修との関係を分析する。比率の差の検定はカイ二乗検定を用い、有意水準は1%とした。

③大学卒業後のゴルフの実施

大学卒業後のゴルフ実施率を性別および年代別に算出し、その特徴を明らかにする。さらに、正課体育の履修経験との関係を分析する。比率の差の検定はカイ二乗検定を用い、有意水準は1%とした。

3. 結果と考察

1) 回答者の属性

回答者の性別および年代別の人数と卒業した学校種、年齢を表1に示す。男性はほとんどが大学卒であるが、女性は1994年卒までは約半数が短大卒である。その後、短大卒は減少し、2005年卒からは12%となっている。居住地は全都道府県に広がっていた。人数が多いのは、一都三県が42.9%(男性42.1%、女性43.8%)で、次いで、京都・大阪・兵庫の15.8%(男性15.0%、女性16.6%)であった。

論文

表1 回答者の属性

	人数			年齢(歳)				
	計	短大	大学	平均	標準偏差	最小値	最大値	中央値
男性								
1970～1974年卒	100	1	99	69.0	1.87	64	74	69
1975～1979年卒	100	1	99	63.8	2.68	59	75	63
1980～1984年卒	100	2	98	58.8	2.40	54	71	59
1985～1989年卒	100	6	94	53.9	2.26	49	65	54
1990～1994年卒	100	3	97	49.5	3.15	44	72	49
1995～1999年卒	100	6	94	45.8	4.97	40	71	45
2000～2004年卒	100	1	99	39.9	3.67	35	65	39
2005～2009年卒	100	1	99	35.5	6.13	29	74	34
2010～2014年卒	100	3	97	32.0	8.60	25	76	29.5
全体	900	24	876	49.8	12.82	25	76	50
女性								
1970～1974年卒	100	60	40	66.9	2.04	64	73	67
1975～1979年卒	100	51	49	61.8	1.79	59	67	62
1980～1984年卒	100	62	38	56.9	2.04	54	63	57
1985～1989年卒	100	48	52	52.8	2.46	49	60	53
1990～1994年卒	100	51	49	47.3	2.19	44	58	47
1995～1999年卒	100	43	57	43.5	2.76	39	56	43
2000～2004年卒	100	35	65	38.2	2.39	34	47	38
2005～2009年卒	100	12	88	33.9	3.22	29	50	33
2010～2014年卒	100	12	88	29.8	5.22	24	69	28
全体	900	374	526	47.9	12.36	24	73	48

2) 正課体育でのゴルフの履修

正課体育の授業として、ゴルフを履修した男性は8.7%、女性は5.4%であった。卒業年代別では、男性は1990年卒以降が比較的高い(図3)。1990年卒以降は12.2%で、それ以前は4.3%であったが、2群の比率には有意差が認められなかった(カイ二乗値4.12、 $p>0.01$)。有意差は認められなかったものの1990年以降が比較的高い背景にはバブル景気でゴルフの人気の高まったことに加え、ゴルフの授業を開講する大学が増えたことが考えられる。大学体育教員実技研修会(ゴルフ)が筑波大学で1978年から開催された。そして、全国大学体育連合の大学体育指導者研修会では1979年からゴルフが取り上げられている。また、同連合は女子ゴルフ指導者研修会を1981年から開催した。このように1980年代は大学体育教員がゴルフの指導法を学ぶ研修会が増え、研修を受けた教員が所属大学でゴ

ルフ授業を開講したと推察される。

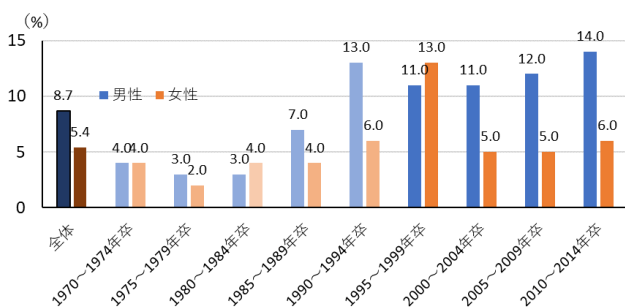


図3 体育の授業でゴルフを受講した比率

全国大学体育連合が2016年に行った調査(男性1,558人、女性910人回答)では、体育科目で履修したい種目(複数回答可)として「ゴルフ」を選んだ男性は11.3%で、女性は4.6%であった⁴⁾。回答が最も多かったのは、男性は「サッカー、フットサル」(36.1%)、女性は「バドミントン」(42.1%)であり、「ゴルフ」とは大きな差がある。

また、大学進学を志望する高校3年生1,000人の調査(2018年9月実施)では、

論文

大学体育で履修したいスポーツ種目として「ゴルフ」を選択した学生は3.7%（男子4.4%、女子3.0%）であった。順位では32種目中29位と低く、「乗馬」（11.2%）や「サーフィン」（7.3%）より低い。なお、1位は「バドミントン」（33.3%）であった⁵⁾。正課体育でゴルフの履修者を増やすためには、高校生のゴルフに対する関心や意欲を高めることが効果的であると考えられる。

自由記述回答では、以下のような回答があった。ゴルフの履修を「良い体験だった」と高く評価する卒業生がいる一方、その反対の感想を持った卒業生もいる。授業内容や指導法が評価の明暗を分けている。

- ・体育でゴルフやアーチェリーを教わり、普段なかなか手軽に出来ない種目を経験出来た。ゴルフやアーチェリーの経験があると言うと羨ましく見られることがある。（女性、41歳、大阪府）
- ・普通に生活していたら、やらないであろうゴルフが少しでも経験できてよかったし、授業でやったので、お金もかからず体験できた。（40歳、女性、東京都）
- ・ほとんど体を動かしてこなかったのも運動不足だったと思う。選択科目としてゴルフがあったので少しスポーツに触れる機会があった。いい経験だったと思う。（41歳、男性、愛知県）
- ・体育でゴルフを専攻し基礎を教えてもらったので、父親とゴルフをすることでコミュニケーションをとる時間が増えました。（男性、27歳、愛知県）
- ・大学の体育の授業でゴルフを選択したが、素振りやパターの練習だけだったので、何の役にも立っていない。（女性、45歳、広島県）
- ・体育ではゴルフが、単位が取りやすいと聞いたので選択したが、やってみたらゼンゼン面白くなく、上手くもなかったもので今でも好きではない。仕事上でやった方がよいと言われるが、その頃の影響で、今でもやりたくない。（男性、38歳、愛知県）

3) 在学中の授業外でのゴルフの実施

在学中に授業外、すなわちサークル活動や余暇として「ゴルフ」を実施した比率は、男性が8.8%で、女性が4.3%であった。なお、レジャースポーツの中では、「スキー・スノーボード」は男性27.2%、女性17.2%、「テニス」は男性22.6%、女性17.9%、「ボウリング」は男性23.3%、女性13.4%であり、これらは「ゴルフ」よりはるかに多い。

性別・年代別のゴルフ実施率を図4に示す。卒業年代別では、男性は1990年卒以降が比較的高い。1990年卒以降は11.0%で、それ以前は6.0%であるが、この2群の比率には有意差が認められなかった（カイ二乗値1.61、 $p>0.01$ ）。女性は、1990年卒以降は5.6%で、それ以前は2.8%であるが、この2群の比率にも有意差が認められなかった（カイ二乗値0.97、 $p>0.01$ ）。

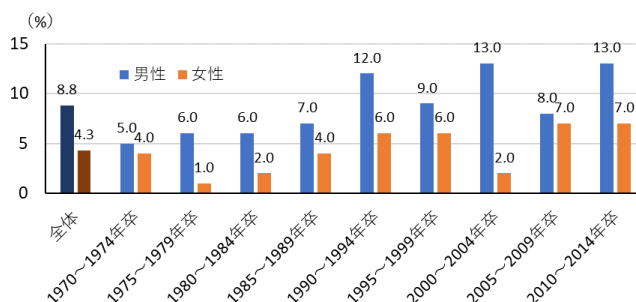


図4 授業以外でのゴルフの実施率

ゴルフの履修経験と授業外での実施の回答をクロス集計した結果を図5と図6に示す。正課体育でゴルフを履修した学生が、在学中に授業外でも実施した比率は、男性が61.5%、女性が49.0%であった。授業でゴルフを履修していない学生はほとんどゴルフをしていない（男性4.6%、女性1.6%）。男女ともにゴルフ履修者の方が授業外での実施率が高く、統計的に有意差が認められた（カイ二乗値：男性235.12、 $p<0.01$ 、女

論文

性 207.39、 $p<0.01$ ）。しかし、履修者の男女差は有意差が認められなかった（カイ二乗値 1.93、 $p>0.01$ ）。このことからゴルフの履修者は男女とも同じ程度、授業外でも実施していると言える。しかし、これらの結果から正課体育の授業の影響で授業外でも実施したとは言い切れない。もともとゴルフをしていたり、関心のある学生が授業を履修したりしたケースもあるからである。ただし、下記の自由記述にもあるように、授業がきっかけとなりゴルフ練習場で練習したというケースは確認できた。

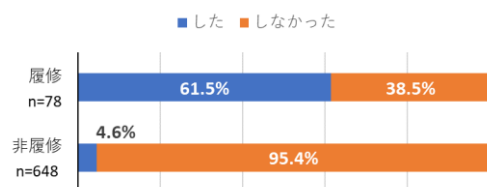


図5 ゴルフの履修と授業外での実施（男性）

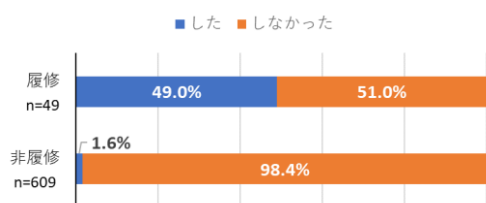


図6 ゴルフの履修と授業外での実施（女性）

自由記述回答では以下のような回答があった。体育授業の影響でゴルフ練習場に行ったり、サークルで行ったりした経験が語られている。

- ・大学時代に**ゴルフの練習場**に友人と連れだって行った経験が、現在もゴルフが続いている要因ではないかと思っている。（男性、71歳、東京都）
- ・**ゴルフサークル**に入り、競技の技術とともにマナーを学んだ。このことより、社会人になってからのゴルフコンペでは、同期のメンバーよりも早くなじめることができた。（男性、56歳、東京都）

- ・体育でゴルフの授業ではなかなか上手に打てなくて、友達と初めて**ゴルフの打ちっ放しで練習**をして授業の試験に合格できた。しかし、今は全然ゴルフに携わっていない。（女性、43歳、石川県）
- ・体育でゴルフを選択し、**打ちっ放しに行ったり**してやり方を学んだ。大人のスポーツなので、**今後にも活かせるから役にたっている**。（女性、28歳、神奈川県）

4) 卒業後のゴルフの実施

卒業後にゴルフを実施した人は、男性が29.7%で、女性が11.1%であった。なお、他のレジャースポーツで実施率が高いのは、「スキー・スノーボード」（男性31.8%、女性22.9%）、「ボウリング」（男性30.6%、女性17.8%）、「テニス」（男性22.4%、女性18.8%）であるが、男性の場合、ゴルフの実施率はこれらに匹敵する。

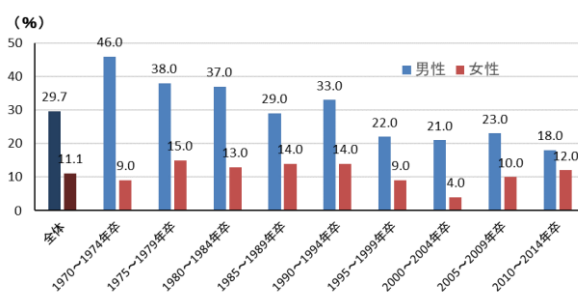


図7 卒業後のゴルフ実施率

ゴルフの実施率を卒業年代別に見ると男女とも古い年代の方が高い（図7）。これは、卒業後の年数が多い方がゴルフを経験する機会も増えるので自然であると言える。

ゴルフの履修経験と卒業後の実施の回答をクロス集計した結果を図8と図9に示す。正課体育でゴルフを履修した学生が、卒業後も実施した比率は、男性が53.8%で、女性が26.5%であった。授業でゴルフを履修していないが卒業後に実施した人は、男性で30.7%、女性11.2%であった。男女ともにゴルフ履修者の方が卒業後の実施率も高く、

論文

統計的に有意差が認められた（カイ二乗値：男性 16.80、 $p<0.01$ 、女性 9.92、 $p<0.01$ ）。しかし、これらの結果から正課体育の授業の影響で卒業後も実施したとは言い切れない。もともとゴルフをしていたり、関心のある学生が授業を履修したりしていたケースもあるからである。ただし、下記の自由記述にもあるように、授業がきっかけとなり卒業後も実施したというケースは確認できた。

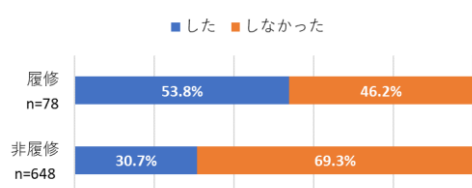


図8 ゴルフの履修と卒業後の実施（男性）

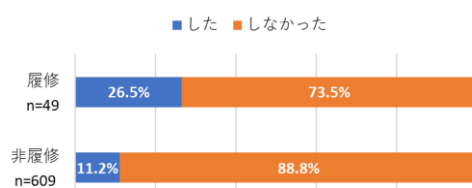


図9 ゴルフの履修と卒業後の実施（女性）

ゴルフ履修者で卒業後も実施した比率は、女性よりも男性の方が高く、有意差が認められた（カイ二乗値 9.15、 $p<0.01$ ）。

この男女の差は、下記の自由記述回答からも読み取れるように、卒業後の環境によるところが大きい。大学・短期大学を卒業した25歳から39歳の女性を対象とした調査（2014年実施）では、ゴルフを開始・再開したきっかけとして、「周囲の人がやっているから」（50.3%）と「周囲の人に勧められたから」（50.3%）という理由が多かった³⁾。これは他の種目（ランニング、登山、ヨガ・ピラティス、ダンス）に比べて極めて

高い結果であった。調査を実施した北らは、「ゴルフは他の種目と比べて社交性が高いスポーツでもあるから」と推測している。男性にもこれが当てはまると考えられる。男性の方が勤め先でゴルフを勧められる機会が多いので、男女の実施率に差が見られたと考えられる。したがって、職場だけでなく、地域や家族でもゴルフが盛んになり、誘い合う環境になればゴルフの実施率は増加すると考えられる。

- ・短大をでて、東京で就職した**会社の社員**たちにゴルフに夢中な人が多くて、自然に私もゴルフを始めました。今年で経験だけは40年以上になります。（女性、67歳、東京都）
- ・高等学校を卒業すると、運動不足になりがちである。スキー、ゴルフなど**卒業後も生涯続けられるスポーツと出会える機会**を与えることは大学教育の大きな責務の一つである。（男性、63歳、東京都）
- ・大学時代の体育の時間にゴルフを習ったので**社会人になってからゴルフを始めるときに取り組みやすかった**。（男性、60歳、愛知県）
- ・大学生の時に覚えたスポーツは、社会人になってからも役立ったし、現在も役に立っている。特に、**ゴルフは社会人になってから始めた人間と、学生時代に経験した者とは、基礎的な部分で大いに差があったと認識している**。（男性、57歳、大阪府）
- ・ゴルフの基本を教わったので、卒業後ゴルフスクールに通った時に、**初心者よりも飲み込みが早かった。気分転換に打ちっ放しに行ったり、家族でコースを回ったりすることもできた**。（女性、53歳、埼玉県）
- ・**体育の授業で初めてゴルフの打ちっ放しの授業があり、ゴルフの楽しさを覚え、卒業してからゴルフクラブを購入しコースを回るようになった**。（男性、53歳、大阪府）
- ・大学の授業でゴルフを習い、**社会人になって接待などでゴルフに関して苦勞することはなかった。今でも続けている**。（男性、48歳、福島県）

4. 結論

大学・短大を1970年から2014年に卒業した1,800人の内、正課体育でゴルフを履修した男性は8.7%で、女性は5.4%であった。卒業年代別では、男性は1990年卒以降がそれ以前に比べて高かった。

在学中に授業外でゴルフを実施した男性は8.8%で、女性は4.3%であり、多くはなかった。正課体育でゴルフを履修した学生では、授業以外でも実施した比率は男性が61.5%、女性が49.0%であった。一方、授業でゴルフを履修していない学生はほとんどゴルフをしていない(男性4.6%、女性1.6%)。自由記述回答からは、授業履修がきっかけとなり授業外でも実施したケースが確認された。

卒業後にゴルフを実施した人は、男性が29.7%で、女性が11.1%であった。この卒業後のゴルフ実施率について、正課体育でゴルフを履修したかどうかで比較したところ、男性では、ゴルフ履修者が53.8%で、非履修者が30.7%、女性では、ゴルフ履修者が26.5%で、非履修者は11.2%であった。男女ともにゴルフ履修者の方が卒業後のゴルフ実施率も高かった。自由記述回答からは、授業履修がきっかけとなり卒業後も実施したケースが確認された。

以上から、ゴルフの履修の有無が、在学時および卒業後のゴルフ実施に影響していることが推察された。しかし、その影響の大きさや因果関係については、本調査では解明できなかった。

5. 今後の課題

ゴルフ履修の有無と在学時および卒業後のゴルフ実施の関係を詳しく解明するため

には、履修者のゴルフ経験や履修理由、授業外や卒業後の実施頻度やきっかけなどについて、詳しく調査し、因果関係や影響の大きさを分析する必要がある。今後の研究課題としたい。

大学で体育を担当するものとして、私たちは、学生に在学中および卒業後もスポーツに親しみ、健康で豊かな生活を送ることを願っている。ゴルフは高齢になっても続けられることから生涯スポーツとしてふさわしい。そこで、ゴルフの履修者を増やし、在学中からも自主的に親しませ、卒業後も継続できるようにするためには、①高校生にゴルフ履修の意欲を喚起すること、②正課体育で良い授業を行うこと、③在学中にゴルフ練習場やゴルフ場へ誘うこと、④スキーやテニスのように友人を誘い合う環境をつくること、が必要であると考えられる。現在は、全国大学体育連合とゴルフ市場活性化委員会、日本プロゴルフ協会が連携して、ゴルフクラブの無償提供やゴルフコース体験、教材開発、指導者研修会などを実施しているが、さらなる発展を期待する。

謝辞

本研究は、JSPS 科研費 JP16K01079 および 2018 年度文教大学学長調整金の助成を受けて行った。

文献

- 1) 日本生産性本部 (2019) 『レジャー白書 2019』 生産性出版
- 2) 北徹朗・橋口剛夫・高橋宗良・浅井泰詞 (2016) 「大学ゴルフ授業における雨天時授業、安全対策、ICT 教材利用の実態調査」『大学体育』107: 106-112

論文

- 3) 北徹朗・小林勝法・飯田路佳・佐野信子・
中山正剛(2015)「成人女性における運動・
スポーツの開始・継続・再開の要因に関
する基礎的研究」『SSF スポーツ政策研究』
4(1)：55-63
- 4) 全国大学体育連合（2017）『体育・スポ
ーツ・健康科目の履修に関する意識調査
報告書』
- 5) 小林勝法・北徹朗（2018）「高校3年生
の大学体育とスポーツに対する意識」『大
学体育』112：50-54

【報告】

韓国ゴルフ大学の現状と将来性

朴 雄（韓国ゴルフ大学）、小林 勝法（文教大学）、関 允淑（筑波大学大学院）

The Current Situation and Future of Korea Golf University

Woong Park (Korea Golf University),

Katsunori Kobayashi(Bunkyo University),

YoonSuk Min(Graduate School of University of Tsukuba)

概要

韓国ゴルフ大学（英語名は Korea Golf University）は3年制の専門大学で、2011年3月に江原道鳳城郡に開校し、約500人の学生が在籍している。学科は4つで、ゴルフ競技指導学科とゴルフ経営学科、ゴルフコース管理学科、ゴルフリハビリテーション学科である。このほかに、3つの専攻科（ゴルフ指導専攻、ゴルフ産業経営専攻、ゴルフコース管理専攻）があり、この課程（1年間）を修了すると4年制大学と同じく学士号が授与される。教育課程は実践的であり、実習施設も充実している。プロゴルファーを輩出するだけでなく、ゴルフ産業界にも人材を輩出し、就職状況も好調である。ゴルフビジネスに関係する人材養成のあり方として、日本の大学や専門学校、ゴルフ業界にも参考にできる。双方の交流を期待したい。

キーワード：韓国、専門大学、教育課程

はじめに

韓国の高等教育機関には、大学院と4年制大学（医学部など一部専攻は6年制）の他に、2年制あるいは3年制の専門大学がある。専門大学では高度な職業教育が行われており、卒業者には専門学士号（日本の

短期大学士号に相当）が授与される。韓国ゴルフ大学は3年制の専門大学の一つで、2011年3月に開校し、2020年5月現在、学部学生数は449人である。

日本ではゴルフに関する専門学校は若干あるが、大学はない。2000年代初頭に、「ゴルフ文化コース」を設置する大学もあった

報告

が、短期間で廃止となった。しかし、2019年度から専門職大学制度が開始し、専門学校が大学化するケースが増えてきた。例えば、2019年に開校した3校は、高知リハビリテーション専門職大学と国際ファッション専門職大学、ヤマザキ動物看護専門職短期大学で、その経営母体はいずれも専門学校を経営している学校法人である。設置認可されたのは上記の3校だけであるが、申請数は17校にのぼっていた。設置意欲は旺盛で、2020年度の申請は20校、2021年度は9校である¹⁾。したがって、日本でもゴルフに関する専門職大学が開設される可能性もあり、韓国の事例から学ぶことは多いと考える。そこで、韓国の先行事例を紹介し、日本の参考に供したい。

1. 概要^(注)

韓国ゴルフ大学は、「ゴルフ競技や産業分野をリードする人材を育成し、国の発展に寄与する」ことを教育理念とし、2011年3月に開校した。創設者は、江原道鳳城郡にあるChungwoo カントリークラブ(現: Alips Daeyoung カントリークラブ)を経営していた鄭章律(정장율 Jeong Jangyul)氏で、カントリークラブの隣接地に開設した。所在地の江原道は、2018年冬季オリンピック・パラリンピックを開催したピョンチャンの西隣で、高速鉄道のKTXで仁川国際空港から約1時間である。

学科は4つで、ゴルフ競技指導学科とゴルフ経営学科、ゴルフコース管理学科、ゴルフリハビリテーション学科である。このほかに、3つの専攻科(ゴルフ指導専攻、

ゴルフ産業経営専攻、ゴルフコース管理専攻)があり、この専攻科(1年間)を修了すると4年制大学と同じ学士号(体育学)が授与される(図1)。これらの学生の総数は482人で、その内訳を表1に示す。専門学士課程および専攻科のほかに、中国とベトナムなどからの留学生を受け入れるために学内に韓国語学校(2年制)を併設しており、1年生2人、2年生28人が在籍している。

なお、専任教員は12人、職員18人(2020年5月現在)である。

専門学士課程(3年間)		専攻科(1年間)
ゴルフ競技指導学科	--	ゴルフ指導専攻
ゴルフ経営学科	--	ゴルフ産業経営専攻
ゴルフコース管理学科	--	ゴルフコース管理専攻
ゴルフリハビリテーション学科		

図1 学科と専攻科の構成

入学金は50万ウォン、年間授業料は学科によって異なり、360~380万ウォンで、その他に実習費が必要である。ただし、留学生の場合は、入学金は支給される奨学金と相殺される。学生は原則として寮生活をするようになっており、寮費が50万ウォン(1学期、4ヶ月)、食費が90万ウォン(1学期、4ヶ月)である。

韓国プロゴルフ協会(KPGA)や韓国女子プロゴルフ協会(KLPGA)のツアープロを毎年10~15人輩出しており、累積は105人である。在学生や卒業生は2019年末までにKPGA、KLPGAをはじめとする国内外のゴルフ大会で58回の優勝を果たした。ゴルフ競技指導学科卒業のイ・ミヒャンは、全米女子プロゴルフ協会LPGAツアーであるLPGA

報 告

ミズノクラシックで2014年に優勝した。

学修支援とキャリア支援については、学修支援センターやキャリア支援センター、インターンシップセンター、産学連携センターを設置し、精力的に取り組んでいる。2017年の就職率は、73.1%で、全国平均の67.7%を超えていた。2018年度の就職率は大学全体で88%で、ゴルフ競技指導学科は74%、ゴルフ経営学科は91%、ゴルフコース管理学科は100%である。なお、ゴルフリハビリテーション学科は2018年開設のため、まだ卒業生を出していない。主な就

職先は、ゴルフ用品メーカー（タイトリストやPRGR、ヤマハ、本間など）やゴルフコースなどであり、将来の韓国ゴルフ産業を担う可能性のある人材を輩出している。

研究面では、特色のある3つの研究所が設置されている。ゴルフ科学研究所とゴルフ産業研究所、ゴルフ場芝草研究所で、その概要を表2に示した。ゴルフに関する基礎研究と応用研究、教材開発のほか、産学協力による事業も行っている。

24

表1 入学定員と在学生数

学科・専攻		入学定員	1年生	2年生	3年生	計
専門 学士 課程	ゴルフ競技指導学科	70	66	70	69	205
	留学生	2	0	0	1	1
	ゴルフ経営学科	40	38	40	40	118
	留学生	1	2	0	0	2
	ゴルフコース管理学科	25	25	25	25	75
	留学生	1	0	0	0	0
専攻 科	ゴルフリハビリテーション学科	25	25	23	—	48
	留学生	—	—	—	—	0
	小計	164	156	158	135	449
	ゴルフ指導専攻	15	20	—	—	20
	ゴルフ産業経営専攻	10	5	—	—	5
韓国語学校	ゴルフコース管理専攻	10	8	—	—	8
	小計	35	33	—	—	33
韓国語学校		30	2	28	—	30

表2 研究所の概要

研究所名	目 的	事 業
ゴルフ科学 研究所	科学教育課程の導入と体系的プログラムの開発	ゴルフスキルの向上プログラム開発 ゴルフトレーニングアカデミー
ゴルフ産業 研究所	ゴルフ関連企業との産学協力により、ゴルフ業界と地域社会、国の発展に資する研究と事業を行う	ゴルフ産業およびスポーツマネジメント研究 ゴルフ関連企業との産学協力モデルの開発 地域社会との協力（ゴルフプログラムの企画事業） ゴルフ選手のエージェント事業 ゴルフ業界の経営方針の開発と提案 現場中心実習教育モデルの開発と運用 学校、企業のビジネスモデルの開発と運用
ゴルフ場芝草 研究所	ゴルフコース管理産業の将来性と産業のニーズを把握	教材の編纂と普及 芝草と肥料、農薬の評価

報告

キャンパスの全容を図2に示した。森に囲まれたキャンパスであり、ドライビングレンジとショートゲーム練習場が特徴的である。ゴルフ練習場は、朝6時から夜10時までいつでも利用可能で3階建てで合計72打席あり、距離は180ヤードである。また、大学の隣地にはゴルフ場（Alips Daeyoung カントリークラブ）がある。

2. 教育課程と就職状況^(注)

4つの学科の教育目的と教育目標、就職先、取得できる資格、授業科目を表3～6に示した。教育目的・目標がそれぞれ明確で、就職先と資格、授業科目が整合している。なお、ゴルフ競技指導学科は、競技専攻と指導専攻に分かれている。また、英語と中国語、情報リテラシーはすべての学科に共通して開講されている。

専攻科には、ゴルフ指導専攻とゴルフ産業経営専攻、ゴルフコース管理専攻の3つの専攻分野があり、ゴルフ産業の需要に応えるゴルフ専門人材の養成を教育目標としている。また、専門大学卒業後の継続教育として職務能力の向上に寄与している。専攻科の授業科目を表7に示した。学科の授

業よりも専門的な授業科目が開講されているし、調査法や論文作成法など大学院進学にも備える科目もある。

3. 将来性

韓国におけるゴルフ産業は近年、持続的に成長してきた。まず、ゴルフ人口について見てみると、大韓ゴルフ協会の『2017韓国ゴルフ指標』²⁾によると20歳以上のゴルフ人口は表8の通りで概ね年々増えている。表中の「経験人口」とは、でゴルフ場やゴルフ練習場、シミュレーションゴルフなどを利用してゴルフ活動経験がある人を指す。この10年間で275万人から761万人へと約3倍に増えている。韓国の人口が約5,100万人であることを考えると約15%に相当する。そして、「活動人口」とは、ゴルフ場やゴルフ練習場、シミュレーションゴルフなどを利用して年に1回以上のゴルフ活動をした人を指すが、これも約2.5倍に増えている。「潜在人口」とは、「ゴルフをしたことがないが、今後ゴルフをする意思がある」と答えた人を指す。これは、調査年によって増減があるものの約1千万人が多い。



図2 キャンパス全容

- ①本館：教室、研究室、執行部、電算室、図書館、ゴルフ研究所、レストラン、厚生施設など
- ②男子寮：200人（4人1室）収容
- ③女子寮：50人（2人1室）収容
- ④練習場：72打席練習場（180yd）、ジム、スイング分析室、マッサージ室、運動療法室、研究室
- ⑤ショートゲーム練習場
- ⑥寮（建設予定）

報告

表3 ゴルフ競技指導学科の教育目的や卒業後の進路、取得できる資格、おもな授業科目

教育目的	国内外ツアーで活躍することができる優れたゴルフ選手の育成 体系的で科学的な理論に基づき、実践を通して指導できる優れた指導者の育成		
教育目標	世界的なツアープロ育成 理論と実技を兼ね備えた指導者養成 知徳体を涵養した人材育成		
卒業後の進路	ゴルフツアープロ ティーチングプロ	ゴルフフィットネストレーナー ゴルフ心理指導	ゴルフ競技委員 ゴルフ関連産業就職
取得できる資格	KPGA、KLPGAの指導者資格 ゴルフライフスポーツ指導士	ゴルフ専門スポーツ指導士 ゴルフクラブフィッティング資格	R&Aのゴルフ審判資格 ゴルフティーチング関連プロ協会資格
おもな授業科目	1年次	2年次	3年次
競技専攻	ゴルフのルールとエチケット スポーツ教育学 スポーツ社会学 スポーツ心理学 スポーツ生理学 ゴルフ体力管理 ゴルフスイング実習 ショートゲーム実習 ゴルフコース実習	コミュニケーション能力 救急と応急処置 ゴルフスイング画像解析 ゴルフ選手の栄養管理 ゴルフスイング応用実習 ゴルフフィットネス ゴルフメンタルトレーニング ゴルフピラティス ゴルフクラブフィッティング	スポーツ倫理 職業倫理 ゴルフコーチング論 ゴルフ心理カウンセリング ゴルフリハビリやスポーツマッサージ ゴルフコンディショニング ゴルフ競技実習 競技運営とルールケーススタディ 就職・起業指導
	ゴルフのルールとエチケット スポーツ教育学 スポーツ社会学 スポーツ心理学 スポーツ生理学 ゴルフ体力管理 ゴルフスイング実習 ショートゲーム実習 ゴルフコース実習	コミュニケーション能力 救急と応急処置 ゴルフスイング画像解析 ゴルフ栄養 ゴルフメンタルトレーニング ゴルフピラティス ゴルフトレーニング論 ゴルフスイング応用指導実習 ショートゲーム応用指導実習 ゴルフコース実習 ゴルフクラブフィッティング	対人関係能力 スポーツ倫理 職業倫理 ゴルフ練習力学 ゴルフ練習行動分析 ゴルフ研究の方法 ゴルフスイング応用指導実習 ショートゲーム応用指導実習 ゴルフクラブ製作や修理実習 ゴルフ競技実習 就職・起業指導

表4 ゴルフ経営学科の教育目的や卒業後の進路、取得できる資格、おもな授業科目

教育目的	ゴルフ関連産業分野で重要な役割を果たす専門経営者の育成		
教育目標	専門的な知識を兼ね備えたゴルフ産業人材育成 ゴルフ産業界のニーズに適応した人材育成 ゴルフ施設運営・管理およびゴルフゲームサポート専門人材の養成		
卒業後の進路	ゴルフ(場)施設運営・管理者 ゴルフ競技運営者 ゴルフ業界資料アナリスト	ゴルフクラブフィッティングの専門家 ゴルフキャディー	経営企画事務員 マーケティングの専門家 スポーツエージェント
取得できる資格	スポーツマネジメント管理士	プロスポーツ指導士1級、2級	ゴルフクラブフィッティング技術士
おもな授業科目	1年次	2年次	3年次
	中国文化の理解 経営概論 スポーツマーケティング 経営者のリーダーシップ ゴルフ産業論 ゴルフ産業心理 ゴルフ消費者行動 スポーツメディア ゴルフの技術力 ゴルフ競技支援論 ショートゲーム・マネジメントの基礎	対人関係能力 コミュニケーション能力 情報活用能力 中国語応用 経営ケーススタディ サービスマーケティング ゴルフ大会運営 ゴルフ施設論 ゴルフツーリズム ゴルフクラブ製作、フィッティング キャディー実務の理解 スイング応用実習 広告論 ゴルフクラブフィッティングの実際 ゴルフコース実習	職業倫理 人事組織論 ゴルフ場経営 スポーツ管理会計 就職・起業指導 創業経営論 実戦創業 ゴルフエージェンシー ゴルフ用品の分析 ゴルフ競技実習 ゴルフのデータ分析活用 ショートゲーム応用実習

報告

表5 ゴルフコース管理学科の教育目的や卒業後の進路、取得できる資格、おもな授業科目

教育目的	ゴルフコースの設計と施工、造園、病害虫対策、農薬、肥料、コース管理機器などのゴルフコース管理者とコース管理業界の専門家養成		
教育目標	正しい社会人として必要な人格、社会性、リーダーシップを備えた人材育成 ゴルフコースの管理と関連の仕事に必要な様々な専門的な理論と実技を兼ね備えた実用的な人材育成 外国語、経営、会計など実務的な知識を備え、国内外の企業に必要なグローバル人材育成		
卒業後の進路	ゴルフコース管理の専門家（グリーンキーパー） 芝草、造園、ゴルフコース設計、施工などの関連企業 種子、肥料、農薬などのゴルフコース材料関連企業 バイオ産業関連研究所や企業 公務員（地方自治団体の施設管理部門など） 専攻科および大学院進学		
取得できる資格	ゴルフコース管理士 芝草管理士	造園技師 植物保護技師	種子技師
おもな授業科目	1年次	2年次	3年次
	対人関係能力 情報活用能力 ピラティス ライフサイエンス コース管理学概論 ゴルフコースの構成の理解 ゴルフコース造園学概論 ゴルフ場の樹木の分類と管理 土壌生態学概論 芝草学概論 芝草生理学と現場実習 ゴルフスイング実習 ショートゲーム実習	コミュニケーション能力 芝草施肥管理と実践 芝草病害虫診断と実践 芝草雑草学と実習 コース管理機器学 コース機器実習および管理 ゴルフ場の設計と施工 造園のCADと制度学 コース管理の現場評価 ゴルフ場水質環境と管理 ゴルフスイング応用実習	職業倫理 就職・起業指導 コース管理事務実務 コース管理機器応用実習 ゴルフスイング応用実習 ショートゲーム応用実習 ゴルフ競技実習

表6 ゴルフリハビリテーション学科の教育目的や卒業後の進路、取得できる資格、おもな授業科目

教育目的	ゴルフをはじめとするスポーツ選手などのリハビリ人材の養成 スポーツ選手の心理相談の専門家養成		
教育目標	ゴルフ選手と一般ゴルファー対象のリハビリ専門人材の養成 スポーツ選手や肉体労働者向けのリハビリ専門人材の養成 スポーツ選手の心理と精神健康増進相談の専門家養成		
卒業後の進路	リハビリ治療士と運動処方士（病院、保健所、一般事業） 障害者と高齢者のリハビリ（福祉館/センターまたはリハビリテーション専門病院、療養施設） 成長クリニック（センター） 選手のトレーナー（プロ球団） パーソナルトレーナー（フィットネスセンター） ダイエット管理（肥満体型管理室）		
取得できる資格	健康運動士 運動リハビリテーション専門指導士 運動処方士 スポーツマッサージ資格	カイロプラクティック資格 ピラティス資格 生活（専門家）スポーツ指導士 身体障害者スポーツ指導士	高齢者のスポーツ指導士 心理運動リハビリテーション指導士 スポーツ心理カウンセラー 消費者心理カウンセラー
おもな授業科目	1年次	2年次	3年次
	健康管理論 運動生理学 人体解剖学 ゴルフリハビリ論 ゴルフマッサージ リハビリトレーニング 応急処置 ピラティス 精神健康論 ゴルフ産業論 ゴルフスイング基礎実習 ショートゲーム基礎実習 ゴルフスイング応用実習	応急処置 スポーツ栄養学 運動検査と処方 スポーツマッサージ カイロプラクティック基礎 ゴルフメンタルトレーニング ゴルフスイング画像解析の基礎 ショートゲーム応用実習 ゴルフ指導基礎実習	体育測定評価 心理カウンセリングと活用 ケアマネジメント ゴルフ理学療法 就職・起業指導 ゴルフスイング画像解析 ゴルフ指導応用実習

報 告

表7 専攻科のおもな授業科目

ゴルフ指導専攻	ゴルフ産業経営専攻	ゴルフコース管理専攻
ゴルフの技術の方法論 ゴルフ競技マネジメント ゴルフ競技の分析 ゴルフ解剖生理学と障害リハビリ ゴルフ用品の研究 ゴルフ技術の応用と実際 ゴルフコース競技力向上法 ゴルフアカデミー運営論 ゴルフメンタルカウンセリング ゴルフトレーニングの原理研究	ゴルフの技術の方法論 ゴルフ競技マネジメント スポーツマーケティング特講 ゴルフ消費者行動の事例 ゴルフ観光プランニング ゴルフ技術の応用と実際 ゴルフコース競技力向上法 ゴルフ経営事例分析 ゴルフ産業および組織心理研究 ゴルフ調査方法論	ゴルフ技術方法論 ゴルフ競技マネジメント 芝草学特論 肥料学特論 コース管理装備応用実習 ゴルフ技術の応用と実際 ゴルフの技術力向上法 ゴルフコース管理学特論 農業学特論 論文やレポート執筆法

表8 ゴルフ人口

	2007年	2012年	2014年	2017年
経験人口	275万人	470万人	619万人	761万人
活動人口	251万人	401万人	531万人	636万人
潜在人口	1,006万人	950万人	1,333万人	956万人

2017年の韓国のゴルフ市場は、『韓国ゴルフ産業白書2018』(ユウォンゴルフ財団)³⁾によると、約12兆4028億ウォン(約1兆1400億円)で、前年の2016年より約7%増加した。当白書では、本市場と派生市場に分けて調査している。本市場は参加市場と観戦市場で、派生市場は選手・指導者養成、用品(ゴルフウェアを含む)・施設、放送権、スポンサーシップなどを含んでいる。本市場の規模は4兆9,409億ウォンで、ゴルフ市場全体規模の39.8%を占めている。一方、派生市場は7兆4,619億ウォンで全体の60.2%であり、派生市場の規模が本市場の規模より大きかった。特に、本市場のうち、参加市場を詳しく見るとゴルフ場の規模は2兆8,383億ウォンであった。シミュレーションゴルフ(韓国ではスクリーンゴルフという)の市場が1兆2,819億ウォンでゴルフ場に次いで大きく、屋外ゴルフ

練習場(6,344億ウォン)と屋内ゴルフ練習場(1,003億ウォン)よりも大きい。シミュレーションゴルフは20～30歳代がゴルフを始める入り口になっているので、今後の発展も期待できる。

また、派生市場は、用品市場(5兆4,194億ウォン)、施設運営市場(7,949億ウォン)、観光市場(5,761億ウォン)、施設開発市場(3,300億ウォン)、スポンサー市場(2,051億ウォン)、その他(1,364億ウォン)の順に大きかったが、用品市場の規模が派生市場の72.6%を占めていた。最近では、冬季でも気温が低くなく、1月に休場していたゴルフ場が営業を続け、それにともないゴルフウェアなどの関連用品の需要が増加した。プロゴルフの人気も高く、市場も拡大している。ゴルフ場の数は、2015年には518ヶ所であったが、2016年と2017年は521ヶ所で安定している。

これらのことから、プロゴルファーや指導者、マネジメント人材、リハビリテーション技能者を養成するゴルフ大学の発展も期待できる。

韓国ゴルフ大学が2017年6月に発表したVISION2020では、発展戦略として次の5つ

報告

を掲げている。戦略1は教育課程の先進化で、学生の満足度を高める教育課程を開発し、ゴルフ専門大学の強みを発掘することである。戦略2は産学協力強化で、ゴルフ産業関連企業と協力し、ゴルフ産業の発展に寄与することである。戦略3はボランティア活動の活性化で、徹底的な人間教育を通して社会奉仕活動を活性化し、社会の構成員として成長させることである。戦略4は専門能力の向上で、ゴルフ専門人材を養成するための研究開発を進めることである。戦略5は学生の福利厚生サービスを改善し、最高の専門人材を養成することに努力することである。これらの発展戦略からは、韓国初で、他国にも類を見ないゴルフ専門大学として、創成期の模索の様子がうかがえる。

韓国も少子化により、学生数が減少しており、閉校する大学も相次いでいる。大学が生き残るためには留学生の受け入れが必要であり、韓国ゴルフ大学では、前述した通りの留学生の受入れ態勢も整えている。

おわりに

日本にもプロゴルファーを目指している大学生がいるが、それらの学生のデュアルキャリアとして、ゴルフの指導法やゴルフビジネスを学ぶことは学生のニーズにも合致しているのではないだろうか。学生の試合は、大学とは離れたゴルフ場で平日に開催されることが多いので、学業との両立が難しい。ゴルフの専門課程であれば、授業日程の融通や授業を欠席したときの補習などの体制も整えやすいであろう。また、日本のゴルフ場ではコース管理業務やキャディなどの人手不足が問題になっている。日

本ゴルフ場経営者協会が関連団体と共同で2017年に行った調査(407のゴルフ場が回答)では、雇用情勢は年々厳しくなると予測するゴルフ場が大半であった⁴⁾。これらのようなゴルフ場業務に係る人材養成のあり方としても参考にできるのではないか。日本の大学や専門学校、ゴルフ業界との交流を期待したい。

【注】

「1. 概要」と「2. 教育課程と就職状況」は、韓国ゴルフ大学ホームページ(<http://web.kg.ac.kr/>、2020年3月1日参照)と内部資料にもとづく。

【文献】

- 1) 文部科学省「大学設置・学校法人審議会 諮問・答申等一覧」https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/daigaku/toushin/index.html、2020年3月31日参照
- 2) 大韓ゴルフ協会、『2017韓国ゴルフ指標』、大韓ゴルフ協会、2018年(대한골프협회、2017 대한골프지표、대한골프협회、2018)
- 3) ソウル大学スポーツ産業センター・ユウォンゴルフ財団、『2018韓国ゴルフ産業白書』、ユウォンゴルフ財団、2019年(서울대학교 스포츠산업센터・유원골프재단、2018 한국골프산업백서、유원골프재단、2019)
- 4) 一般社団法人日本ゴルフ場経営者協会、「雇用状況実態調査」報告、2017年

【報告】

コロナ禍のゴルフ授業

—感染防止ガイドラインに沿った授業実施報告—

鈴木タケル（日本プロゴルフ協会ティーチングプロ会員・武蔵野美術大学非常勤講師）、北 徹朗（武蔵野美術大学）

30

Golf classes during the COVID-19 crisis

—Case Report of a Golf Class in Accordance with Infection Control Guidelines—

Takeru Suzuki (The Professional Golfers' Association of Japan),

Tetsuro Kita (Musashino Art University)

概要

本報告では、新型コロナウイルス(COVID-19)に対してのゴルフ授業実施における感染防止ガイドラインを紹介するとともに、ガイドラインに沿った授業展開での問題や注意事項を報告する。ガイドラインに沿った授業を実施するために教員は、感染防止対策のために授業前準備を徹底する必要があった。授業では、フィジカルディスタンスをとること、道具の共有使用を避けること、授業前後の手洗いや消毒の実施など感染防止に対する注意喚起を怠らないように努めることでガイドラインに沿った授業を実施することができた。また、ゴルフ授業後、受講者にアンケート調査を行った結果、ガイドラインに沿った感染防止対策に不安を感じた受講者はいなかった。同時に過剰な対策だと感じた受講者もいなかった。普段の授業と比べ感染防止という様々な制限がある中でのゴルフ授業であったが、全ての受講者でゴルフが楽しいとの回答を得た。そのため、ガイドラインに沿った授業を行うことで受講者は不安を感じることなく、ゴルフの楽しさが十分理解できる授業が実施可能であると考えられた。

キーワード：コロナ、ゴルフ授業、感染防止ガイドライン

1. はじめに

2020年3月11日からパンデミックとして猛威を振るう新型コロナウイルス(COVID-19)は、国内においても2020年12月現在未だ収束の見通しは立っていない¹⁾。厚生労働省は5月より「新しい生活様式」への変革を訴え続けている²⁾。大学体育授業も例外ではなくオンライン授業が実施されている。しかしながら、学生のインターネット環境や使用端末機器の動画視聴条件が異なるなど環境整備が不十分である他、オンライン環境での教授方法が確立されていないために手探りの状態が続いている³⁾。全国的に感染が広がる中、4月7日に7都府県に出された緊急事態宣言は全国へと拡大され、その後5月25日に当初の予定よりも延長されたが緊急事態宣言は解除された⁴⁾。緊急事態宣言解除後は、地方の大学では徐々に対面授業が再開されている。武蔵野美術大学では、一般体育授業の再開より先行し、8月に実施するスクーリングのゴルフ授業に合わせ「武蔵野美術大学ゴルフ授業

のCOVID-19感染防止ガイドライン」が事前に作成された。ガイドラインは、一般社団法人日本ゴルフ場経営者協会や公益社団法人日本パブリックゴルフ協会などの、ゴルフ業界団体が示すガイドラインを参考にして作成された⁵⁾。作成されたガイドラインは、現段階でのエビデンスに基づき感染防止に配慮したものであり、コロナ禍のゴルフ授業実施においてどの程度の対策を取るべきであるかの判断基準となる内容である。

本報告では、「武蔵野美術大学ゴルフ授業のCOVID-19感染防止ガイドライン」を紹介し、8月に学内グラウンドにて3日間行われたガイドラインに沿ったスクーリングのゴルフ授業実施報告をすることで、これから徐々に再開されると予測される対面でのゴルフ授業実施に有用となる情報を提供する。本報告では、最初に2章で授業場面ごとにガイドラインを紹介し、3章ではそれに対応して実施報告を記載した(表1)。また、授業後に実施した感染防止対策とゴルフ授業に関するアンケート結果を示した。

表1 授業場面ごとのガイドラインと実施報告の項目

2. 感染防止ガイドライン	3. ガイドラインに沿った実施報告
2-1 授業開始時	3-1 授業開始時「実施報告」
2-2 教室での授業時	3-2 教室での授業時「実施報告」
2-3 更衣室	3-3 更衣室「実施報告」
2-4 グラウンドでの実技授業の展開	3-4 グラウンドでの実技授業の展開「実施報告」
2-5 授業後の後片付け	3-5 授業後の後片付け「実施報告」

2. 武蔵野美術大学ゴルフ授業のCOVID-19感染防止ガイドライン

2-1 授業開始時

受講者には、初日の授業前に体調チェック

表を配布して授業期間中を通して使用した(表2)。

1) 受講者には大学より受講前後2週間の検温と体調確認を促した上で参加し、毎回の授業開始前に非接触型体温計を用いて全受

講者を検温する。

2) 37.5度以上の発熱が見られた場合、10分程度時間を置いてから再度計測する。真夏の高温環境下で登校直後の場合、体温が一時的に上昇している可能性もあるため、10分後に再度計測する。二度目の計測でも37.5度以上の場合は保健室に連絡後、直ちに帰宅させる。

3) 「味覚および嗅覚」のチェック項目に「あり」と回答した受講生は保健室に連絡後、直ちに帰宅させる。

4) これ以外のチェック項目への「あり」については、受講生の体調に応じて見学などの対応にする。

5) 新型コロナウイルス感染症は学校保健安全法の「学校感染症」に新たに指定されているため、帰宅させたり出校停止をさせた受講生がいた場合、受講生に不利益のない様に対応する。

2-2 教室での授業時

1) 教室で授業実施の際には、前方2列は使用しない。そして隣と2席の間隔を空けて座るように指示する。人との間隔は、厚生労働省公表の「新しい生活様式」が示す2m空ける条件を満たす距離であること²⁾。

2) 教室での授業実施の際にはZ o o mも併用し、オンライン受講者の受講場所は自由とする。

3) 教員と受講生は常時マスクを着用する。対面接近の際にはフェイスシールドも併用する。

4) パソコン操作卓および教卓には飛沫飛散防止のための遮蔽ボードを設置する。

5) 移動の際にはフィジカルディスタンスを徹底し、授業前後の手洗いの励行を促す。

2-3 更衣室

1) 更衣室は5名以上の同時利用はしない。5名以上となる場合は、フィジカルディスタンスを取って室外で待たせる。

2) 更衣室内のロッカーは使用禁止とする。ロッカーは体育館内廊下のものを使用させる。

3) 更衣室では感染防止の対策として私語厳禁とする。

4) 更衣室内のシャワーは感染防止の観点から使用できる数を制限する（男子：2台、女子3台）。そのため、シャワーの利用は極力控えさせる。希望する受講生には使い捨てのボディタオルを提供する。

5) シャワー使用の場合は5分以内とし、シャンプーや石鹸の利用は不可とする。

6) 更衣室内には換気のために扇風機を設置している。ロッカー上方へ向け、換気するようにセットされているので、風向は変えない。

7) 更衣室の使用時間の重なりを避けるため、授業ごとに更衣室使用時間を下記とする。

・フィットネス	15名	9:30～ 9:45
・護身武術	14名	9:45～10:00
・ダンス	14名	10:00～10:15
・ゴルフ	16名	10:15～10:30

※スクーリング授業では、上記4種目に参加する受講生59名が9時に各種目の教室に集合する、更衣による混雑を避けるために各種目によって更衣室の使用時間を予め設定した

2-4 グラウンドでの実技授業の展開

1) 教員が受講生に説明等を聞かせる場合はマスクを着用する。受講生が運動実施の際に息苦しさ等を訴えた場合はマスクを外す

よう指示する。（運動時のマスク着用はサチュレーションが低下する恐れがあり危険であるため）ただし、2021年2月現在では、健康な人ならばマスク着用時の運動は呼吸抵抗がわずかに増加するが、生理学的な影響は与えないと報告されている⁶⁾。

2) 教員は基本的にフィジカルディスタンスを保つ授業展開の工夫をして、受講生同士の対面距離が短いなどの懸念がある場合は、受講生にフェイスシールドを着用させても構わない。

3) また、受講生が不安を訴えた場合、大学で準備しているマスクやフェイスシールドを提供しても構わない。

4) 外出自粛により例年に比べて暑熱順化ができておらず運動不足も顕著であると思われる。熱中症になりやすい状況なので、連続した運動を避けて休憩時間を小刻みに挟み水分補給を促し、体調に無理のないプログラムでの授業計画が望まれる。但し、「いい加減な授業」にならないよう計画性と緊張感をもって行う。

5) 授業中に受講生同士でクラブの貸し借りや交換をさせないために、クラブはナンバリングして専用クラブを決めさせた(図3)。

6) 授業準備（仕切りネットによる打席づくり、マット、ボールカゴ準備）の際には、軍手を着用する。準備が終わったら使用した軍手は洗濯カゴに入れさせる。

7) 打球練習の際にボールを設置する時には、ボールをクラブまたは足で扱う。

8) 簡易ラウンド時についてはホールアウト後、ボールは手でピックアップして、ラウンド後にはよく手を洗わせる。

9) 教員はマスクを着用する。個別指導などで接近する場合はフェイスシールドも併用

する。

10) グループ活動やラウンドの際には、フィジカルディスタンスを十分に確保させ、大声での会話は控えるよう指示する。

2-5 授業後の後片付け

1) ボール拾いの際には、洗濯済み軍手を着用し拾わせる。授業内で二度三度とボール拾いの時間がある場合は、その都度、洗濯済み軍手に替えさせる。授業終了時の最後のボール回収の際には、回収後、軍手をはめたまま仕切りネットなど打席の撤収も行わせ、使用した軍手を洗濯カゴに入れさせる。

2) 片付けの際には、受講生にクラブのグリップの消毒・拭き取りを各自行わせる。消毒作業の際には、使い捨てのビニール手袋を着用させ、グリップ部分に消毒液を噴霧しタオルで拭き取らせる。

3) タオルと軍手は洗濯・乾燥して使い回すが、洗濯・乾燥が間に合わない場合は新しいものを使う。

4) 雨天時や暑熱回避のため屋内施設で授業を実施した場合は、床に消毒液を噴霧し、使い捨てのモップ（ダスター）で拭き取る。

5) 授業後には「手洗い」および「顔洗い」の励行を促す。

6) 汗を拭くための使い捨てタオルやウェットティッシュ、ペットボトルなどのゴミは感染防止のため持ち帰らせる。

7) 他の授業と終了時間が重なった場合、更衣室が混雑する可能性があるため、5名以上の入室を避け、順番待ちをするように促した上で終了する。

報告

表2 体調チェック表

		月 日()	月 日()	月 日()
	体温	℃	℃	℃
体 調 管 理 項 目	咳	あり・なし	あり・なし	あり・なし
	息切れ	あり・なし	あり・なし	あり・なし
	痰	あり・なし	あり・なし	あり・なし
	喉の痛み	あり・なし	あり・なし	あり・なし
	鼻水	あり・なし	あり・なし	あり・なし
	筋肉痛	あり・なし	あり・なし	あり・なし
	頭痛	あり・なし	あり・なし	あり・なし
	下痢・嘔吐	あり・なし	あり・なし	あり・なし
	味・匂いの異常	あり・なし	あり・なし	あり・なし

3. ガイドラインに沿った授業実施報告

本報告で実施された授業形態は、夏季スクーリングでの実技と講義を含む対面式授業であった。1日の授業時間は、途中で90分の昼食休憩を挟み9:00～17:00に行われた。場所は、武蔵野美術大学鷹の台キャンパスの学内教室及び人工芝グラウンドを使用し、日時は、2020年8月4日～6日の3日間で行われた。なお、ゴルフ指導を担当する教員は1名で、受講者は、男性5名、女性8名の合計13名が授業に参加した。また、受講生のゴルフ経験は、経験有りが4名、経験のない受講生は9名であり、半数以上がゴルフクラブを初めて握る受講者であった。夏季スクーリング実施日は、暑さの厳しい8月だったために、期間中の気象条件を参考までに下記表3に示す。

表3 平均気温と最高気温及び日照時間

授業日	平均気温	最高気温	日照時間
8月4日	27.8℃	33.1℃	10.2時間
8月5日	28.9℃	34.5℃	8.8時間
8月6日	28.4℃	33.4℃	10.3時間

※気象庁発表データより⁷⁾

3-1 授業開始時「実施報告」

教員1名がその日の授業開始前に非接触型体温計を用いて受講生1人ずつ検温をおこなった。教員は測定結果を受講生に即座に提示して、体温と同時に体調チェック表を個人用の鉛筆で受講者自身に記入させた。ガイドラインでは、体温または味覚及び嗅覚のチェック項目で異常がある場合の対応として保健室に連絡後直ちに帰宅させることになっていたが、期間内に該当する者はいなかった。しかしながら、もし異常があった場合の対応については各大学で明確に決定しておくことは重要である。また、検温に掛かる時間は、13名の場合6～10分程度であり、授業開始の10分前に教室で待機し、出席している受講生から順に検温を行うことで密集を避け速やかに授業を開始することができた。授業前に検温や体調チェックを行う場合、これに掛かる時間や場所の確保の必要性が考えられた。

3-2 教室での授業時「実施報告」

教室での授業では、教員及び受講生は常時マスクを着用した。教室の入り口には常に消毒用のアルコールを設置した。今回のスクーリングでは、13名であったが用意した教室は、140席(約130㎡)の教室であり、武蔵野美術大学が定めたこの教室の「コロナ定員」も40席とされていたことからフィジカルディスタンスを保つのに十分な広さであった。教卓から最も近い受講者でも約5m以上の距離を空けて講義を行うことが可能であったため、逆に音響の問題により飛沫飛散防止のための遮蔽ボードはあえて使用しなかった。教室出入り口の扉と窓はできる限り空けて換気を行いながら暑さを凌

ぐ為の冷房も使用した。1 単元 90 分という授業規定時間に関係なく 50 分以上の連続した講義を避け、換気のため 10 分間の休憩を 50 分以内に 1 回挟んだ。また、移動や休憩時間の際にはフィジカルディスタンスを徹底することと授業前後で手洗いの励行をその都度に毎回注意喚起した。教室での授業時では、換気が可能な余裕のある広さの教室を確保すること、長時間の講義やグループワークが行えないなどによる普段とは違う授業内容の工夫が重要になると考えられた。

3-3 更衣室「実施報告」

更衣室の使い方については、私語の厳禁や使用時間や使用人数など、これまでとは違う制限を受講生には十分に説明を行った。同時間に開催の本スクーリング授業では混雑を避けるための使用方法是、各授業担当の教員同士が使用時間の時間割について調整し、終了時間についても時間をずらして順次授業を終了させるなど臨機応変に対応することが求められた。本スクーリングでは、更衣室の使用時間を予め決めていたこと、余裕のある定員にしていたことで混雑はなく、スムーズな更衣室の利用となった。また、更衣室内に換気のために扇風機を上方に向けて設置し、入り口付近には消毒液を配置して十分な対策が取られた。更衣室の利用に関しては、利用時間と利用定員の設定、使用時間の時間割を決定しておくことで密集を避けられると考えられた。

3-4 グラウンドでの実技授業の展開「実施報告」

本スクーリングは、8 月ということもあり感

染防止対策の他に熱中症対策も同時に注意する必要があった⁸⁾。授業を実施した 3 日間は、いずれも気象庁の示す最高気温 30℃以上である真夏日であったため、双方の両立が求められた。ゴルフスイングの練習時では、吐く力や吸う力に強弱がつきやすく、呼吸数の上昇が予想される。そのため練習する打席間の設定及びフィジカルディスタンスに注意する必要があった。1 つの打席には、2 人 1 組で使用して練習者以外のパートナーは打球方向と反対の後方に 7m 以上間隔をとり待機した。さらに前後の打席と打席の間隔も 7m 以上とり、打球練習中は 7m 以内には指導教員以外は近寄らないように配慮した。今回は、13 名であったため 1 人 1 打席で練習を行うことも可能であったが、あえて 2 人 1 組で練習を実施した。その理由として、外出自粛が続き受講者の暑熱順化ができていないために 1 人が連続して打球することで運動強度が高くなり過ぎないこと、さらに交代で打つことにより水分補給と休憩のタイミングを作ることを考慮した。そのため、予め苦しかったらマスクを外してもよいと指示を出していたが、ほとんどの受講生は打球中にマスクを外さず、自分の休憩時間にマスクを外して水分補給を速やかに行うことができていた。ただし、1 人の連続打球数は最大で 5 球を限度として交代を指示し、連続打球による運動負荷の増加には十分に配慮した。更に、45 分経過ごとに 15 分の休憩時間を設定し休憩時間には室内や日陰に入るように指示した。また、サッカーグラウンド内に仮設コースを設定しラウンドする授業では、2 人 1 組としてフィジカルディスタンスを保つよう指示した。また、通常 9 ホールのゴルフコ

報告

36

ースでは、全員が1番ホールからスタートして順番にホールを回り9番ホールで終了することになる。しかしながら、この方法では全員がホールアウトするまでに時間が掛かる上に、スタートホールの一ヵ所に人が密集する可能性がある。本授業では、密集を避けるために各ホールから各組が一斉にスタートする、いわゆるショットガン方式を採用した(図1)。この方法では、1番ホールから9番ホールの各ホールに受講生を配置して合図とともに一斉にスタートし順番にホールを回る。例えば5番ホールからスタートした組は4番ホールにて終了となる。そのため、各組でスタートホールとフィニッシュホールが変わってしまうという欠点はあるが、炎天下でのラウンド時間を短縮しつつ、人の密集を避けるには適していると考えた。打球練習中及びラウンド中では3日間で体調不良を訴えるものはいなかった。使用クラブについては、本授業では、7アイアン、ピッチングウェッジ、パターの3本を使用するため、初めに自分専用のクラブを決定し受講生自身でグリップ部分を中心に消毒をおこなった。その際、軍手を着用し、次亜塩素酸ナトリウム液を使用してタオルで拭き取った。次亜塩素酸ナトリウム液は、アルコール消毒液が入手困難な場合にドアノブなどの消毒に厚生労働省が代用を薦めるもので、塩素系の漂白剤を0.05%に薄めた上で使用した⁹⁾。次亜塩素酸ナトリウム液は、毎朝授業前に希釈し、新たに作成するようにした。軍手、次亜塩素酸ナトリウム液、拭き取りタオルは大学で事前に用意していた(図2)。消毒後に自分専用のクラブと判別できるようにナンバリングシールをクラブのシャフト部分に貼った(図3)。

今回のスクーリングでは、感染防止のため使用クラブは3本のみに絞った。期間中は、3本のクラブを個別に倉庫に保管して使用し、受講生間でのクラブ貸し借りを禁止した。3日間の授業終了後に再度消毒をして返却した。ゴルフ授業の中心となる実技授業では、授業前に打席スペースを十分に確保できることを事前に実施場所で確認する必要があった。また、軍手や消毒液、クラブ識別用のナンバリングシールなど普段の授業より増して授業準備を徹底する必要がある。屋外授業では、コロナ禍以前の授業と比べフィジカルディスタンスを取るため受講生同士の会話は極端に減少し、積極的な意見交換は少なくなってしまったがその分自身の練習への集中が見られ、ポジティブな効果もあったと考えられた。

3-5 授業後の後片付け「実施報告」

授業前後の打席の仕切り板やボールの用意及び後片付けの際には、必ず軍手を着用して行った。その際に必要であれば、軍手を取り替えるように指示した。ガイドラインでは軍手は使用ごとに交換して洗濯済みのものを新たに使用するとしていたが、実際は軍手を取り換える手間やその都度一ヵ所に集まるリスクを避けるため軍手はおおよそ1日で1人につき1つを自分専用の軍手として使用した。そのため、受講生は準備に使用した軍手を各自が保管して後片付けでも使用した。後片付けとボール拾いのタイミングを合わせることでなるべく受講生に軍手の着脱回数を減らせるように努めた。実技授業の終了後には、特に手洗いとうがい、更衣室とシャワー室の利用について注意喚起して終了するようにした。本スクーリン

報告

グの実施環境は、打席練習のためのボールとマット、打席仕切り板を用意する程度であったために受講生の負担は少なく軍手をその都度取り替える必要はなかった。授業実施環境にもよるが、軍手は毎日1枚を受講生が自分専用に使用する程度で十分と考えられた。

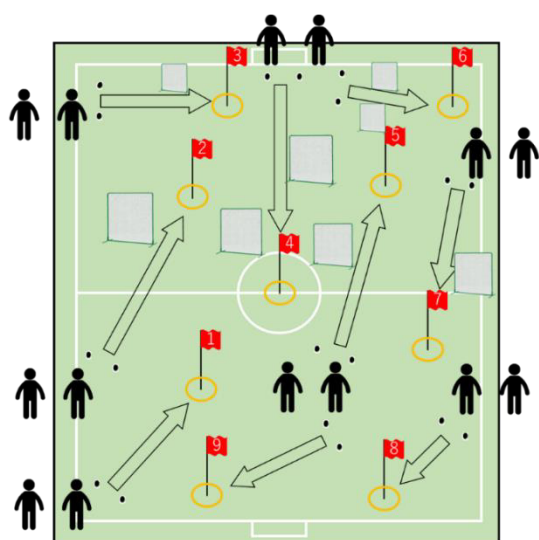


図1 ショットガン方式スタートでの各組の配置

※1番ホールから順番にスタートするのではなく、最初に各ホールに各組を配置し一斉スタートする。例 2番ホールスタート組は、次に3番、4番、5番、と進み1番ホールで終了



図2 授業で使用した軍手



図3 ナンバリングしたクラブ

※クラブにナンバーラベルシールを貼り、個人専有クラブとして識別できるようにした

4. 授業の意義

今回のゴルフ授業は、コロナ禍以降初めて行われたゴルフ授業であった。そのため、教員は、これまでにはなかった感染防止対策と同時にゴルフ授業充実の双方の両立が求められた。そこで、ゴルフ授業に参加した13名に対して授業に関するアンケートを行った。結果によれば、本授業でのコロナ対策について受講者は、不安を感じることはなく、尚且つやり過ぎているとも感じていないとの回答を得られた(図4)。また、今回のゴルフ授業は、コロナ対策や熱中症対策のために本来のゴルフ授業よりも制限が多かったにも関わらずゴルフの楽しさが十分に伝わったと考えられた(図5)。さらに、受講生は実際のゴルフコースへ行くことへの興味関心が高い結果が得られた(図6)。ゴルフを指導する教員は、アンケート結果を受講生の前向きな意見と捉え、今後も感染防止の動向に細心の注意を払い、ゴルフ授業の充実に取り組む必要がある。2020年9月

報告

38

15日現在、既に授業を終えてから1か月以上が経過したが、受講者から感染者が発生した報告や、クラスター発生の報告はなかった。受講者自身が感染防止に努めていたことに加え、今回のガイドラインに沿ったゴルフ授業の実施で感染者が発生しなかったという意味では感染防止に一定の効果があったものと思われる。

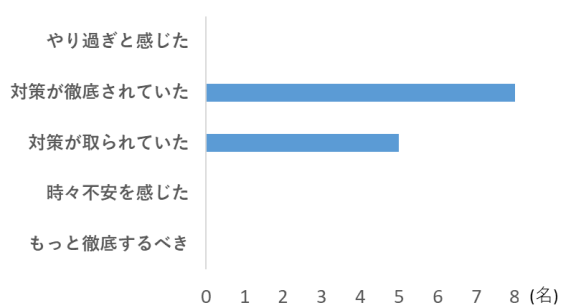


図4 コロナ感染防止対策について

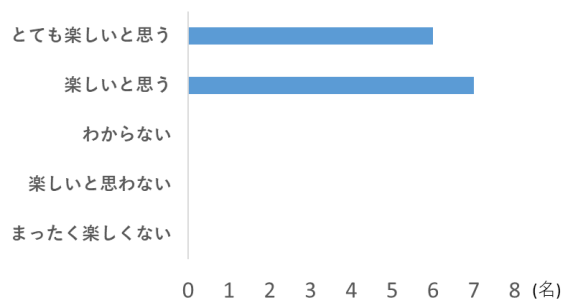


図5 ゴルフ授業を受講した感想は？

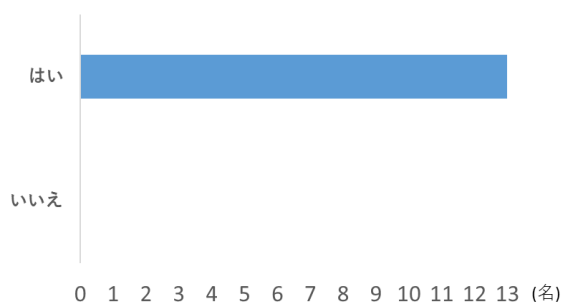


図6 実際のゴルフコースでプレーをしたいですか？

5. おわりに

2020年12月現在では、ゴルフは屋外での少人数プレーのため、密閉・密集・密接をさけることができる比較的感染リスクの少ないスポーツとして関心が高まっている。生活の中での感染リスクについては、時が経つにつれて科学的エビデンスが徐々に明らかにされてきている。しかしながら、ゴルフ授業の再開に関しては、各地域の感染状況や地方自治体の方針、大学施設や定員の規模が多様であるために一律の基準を示すことは難しい。ゴルフ授業に関しては、今後も感染リスクに対する最新の情報に応じてガイドラインの改定や改正をする必要はある。教員は、コロナ禍のゴルフ授業を充実させるために感染防止対策を徹底する必要があると考えられる。今回、コロナ禍においてもゴルフ授業を充実した内容で展開させるため、教員はガイドラインに沿った感染防止対策に配慮した授業準備をすることに注力し、それに費やす時間的負担が増した。しかしながら、受講生からは安全で不安なくゴルフ授業が行えたことによる高い満足感が得られたことは、コロナ禍におけるゴルフ授業展開のあり方として有意義であったと言える。今回示した現段階でのエビデンスを参考にしたガイドラインとそれに沿ったゴルフ授業での実施報告が、ゴルフ授業を担当する方々に取って一助となれば幸いである。

【謝辞】

本報告の掲載に際して査読・編集に携わって頂いた一般社団法人大学ゴルフ授業研究会、研究論文誌編集委員の方々には深く感謝申し上げます。

報告

【文献】

- 1) WHO Director-General's opening remarks at the media briefing on COVID-19 - 11 March 2020. World Health Organization 公式ホームページ Director General Speeches. URL:<https://www.who.int/director-general/speeches/detail/who-director-general-s-opening-remarks-at-the-media-briefing-on-covid-19---11-march-2020>(閲覧日:2021年2月1日)
- 2) 厚生労働省:新しい生活様式の実践例. URL:https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_newlifestyle.html(閲覧日:2020年8月28日)
- 3) 北 徹朗:「コロナ禍と大学授業 ―ゴルフ授業再開へ向けてのガイドライン―」『月刊ゴルフ用品界8月号』, pp. 58-63.
- 4) 首相官邸:新型コロナウイルス感染症対策本部(第36回) 資料2 新型コロナウイルス感染症緊急事態解除宣言. URL:https://corona.go.jp/news/pdf/kinkyujitaisen_gaiyou0525.pdf(閲覧日:2020年8月28日)
- 5) 一般社団法人 日本ゴルフ場経営者協会 公益社団法人 日本パブリックゴルフ協会 「新型コロナウイルス感染防止ガイドライン」. URL: <https://www.golf-ngk.or.jp/news/2020/corona/golfcoronaguideline.pdf>. 2020年7月1日版(閲覧日:2020年7月2日), 改訂第4版2020年8月1日版(閲覧日:2020年8月28日)
- 6) Commentary: Physiological and Psychological Impact of Face Mask Usage during the COVID-19 Pandemic. Jennifer L. Scheid, Shannon P. Lupien, Gregory S. Ford, Sarah L. West. Int. J. Environ. Res. Public Health 2020, 17(18), 6655; URL:<https://www.mdpi.com/1660-4601/17/18/6655/htm>
- 7) 気象庁:各種データ・資料 府中地方 URL:https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/daily_al.php?prec_no=44&block_no=1133&year=2020&month=8&day=&view=(閲覧日:2020年8月28日)
- 8) スポーツ庁:安全に運動・スポーツをするポイントは? URL:https://www.mext.go.jp/sports/content/20200522-spt_sseisaku01-000006777_2.pdf(閲覧日:2020年8月28日)
- 9) 厚生労働省:新型コロナウイルス対策 身のまわりを清潔にしましょう 参考0.05%以上の次亜塩素酸ナトリウム液の作り方 URL:<https://www.mhlw.go.jp/content/000617981.pdf>(閲覧日:2020年8月28日)

ゴルフ教育研究【投稿規程】

1. 雑誌の性格

ゴルフ教育研究は、ゴルフを通じた教育研究に関するオープンアクセスジャーナルである。ゴルフ教育に関する新しい知見および教育方法を日本語または英語で公表する。

2. 投稿資格

ゴルフ教育研究は、一般社団法人大学ゴルフ授業研究会が管理・編集を行う研究論文誌であるが、本研究会の世話人（会員）と非世話人（非会員）を問わず、本誌に原稿を投稿することができる。ただし、非世話人（非会員）は、原稿の採択が決定した場合に、別に定める掲載料を大学ゴルフ授業研究会研究論文誌編集委員会に支払わなくてはならない。

3. 投稿者の責任

掲載された原稿の内容に関して、投稿者がすべての責任を負うものとする。投稿原稿の内容は未発表のもので、他の学術雑誌に投稿中でないものに限る。

4. 投稿原稿の種類と内容

4.1 種類

投稿を受け付ける原稿は、「論文（Paper）」、「報告（Report paper）」、「授業アイデア提案（Proposal paper in a class）」、「資料（Material）」、「その他（others）」とする。この内、「論文」、「報告」、および「授業アイデア提案」は査読者の評価を参考にし、研究論文誌編集委員会において掲載可否を判断する。「資料」、および「その他」は研究論文誌編集委員会の確認を経て掲載する。従って、「資料」および「その他」は査読制度を設けない。

- 1) 論文（Paper）は、独創的で適正なデータから、十分な検証、論証を経て価値のある結論を提示したもの。
- 2) 報告（Report paper）は、ゴルフ教育の立場からの実践報告、新たな教育方法等の結果をまとめたもの。
- 3) 授業アイデア提案（Proposal paper in a class）は、高等教育機関の授業において、効率的・効果的に教育内容を展開するためのアイデアを提案したもの。また、授業用に独自で開発した教材や教具について紹介したもの。
- 4) 資料（Material）は、本研究会の研修会において、研究発表した概要をフォーマットに則り、まとめたもの。
- 5) その他（others）は、上記4点の原稿種類に該当しないが、ゴルフ教育の観点から有意義な内容が記載されたもの。これは、研究論文誌編集委員会から著者を指定して原稿作成を依頼する場合がある。

4.2 原稿の長さ

本誌はオープンアクセスジャーナルであるため、どの原稿もフォーマットに則り必要事項が記載されていれば文字数や頁の制限は設けない。ただし、図や写真については、過度な使用にならないように配慮すること。

1つの原稿において、研究成果が多岐にわたる場合は、研究論文誌編集委員会の判断により、研究内容を分割し、それぞれ独立した原稿とするか、連載原稿とするように指示する場合がある。

なお、論文(Paper)、報告(Report paper)、授業アイデア提案(Proposal paper in a class)の原稿には、英語タイトル、および英語または日本語のアブストラクトを付すこと。アブストラクトは、日本語で400字程度、英語で150～250語(word)程度とします。また、3～5語でキーワード(Keywords)、図表もしくは写真を必ず含むものとする。

5. 使用言語と使用単位

5.1 言語

日本語を基本とし、英文で投稿する場合は研究論文誌編集委員会にあらかじめ英文で原稿を作成・投稿する旨を連絡すること。

5.2 単位

SI単位が望ましいが、CGS単位も認める。ただし、コース内の距離やボールの飛距離を示す際の単位は「ヤード(yard)」とする。

6. 投稿原稿の提出方法

各種原稿の投稿は、オンライン上で行うものとする。具体的には、大学ゴルフ授業研究会の公式ホームページ(<https://daigaku-golf.org/g-challenge>)より、原稿の種類に合わせたフォーマットをダウンロードし、フォーマットに則り原稿内容を作成、完成原稿を編集委員長宛て(kentakahashi@gakusen.ac.jp)に送信すること。

7. 研究論文誌編集委員会での原稿の取り扱い

7.1. 原稿の受付

投稿された原稿は、フォーマットに則していない場合や内容に著しい不備がある場合、研究論文誌編集委員会の判断により再提出を求める。

7.2. 原稿受付日

原稿が研究論文誌編集委員会に到着し、フォーマットに則した原稿であると判断された日をもって受付日とする。

7.3. 審査

1) 査読

「論文」、「報告」、および「授業アイデア提案」の原稿については、査読を行い、査読者の評価を参考にし、研究論文誌編集委員会において掲載可否を判断する。査読は、本誌編集委員会より 2 名の査読者を指定し、査読者は本誌編集委員会に査読評価結果を報告する。査読者 2 名の評価がわかれた場合、3 人目の査読者を指定し、3 名の査読結果を参考に原稿の「採択」、「修正」、「不採択」を決定する。

2) 査読期間

査読期間は、原稿受付日の翌日より 21 日間程度とし、28 日間を越えないものとする（例、原稿受付日：5 月 1 日・査読期間：5 月 2 日～5 月 29 日 23:59）。ただし、3 人目の査読者を指定した場合は、さらに 28 日間の期間が延長される場合がある。

3) 原稿の修正と修正対応表の作成

審査の過程で研究論文誌編集委員会より「修正」を求められた原稿を再提出する際は、査読者への「修正対応表（回答コメント）」を作成する。修正対応表は、原則 Microsoft Word で作成し、校閲機能を活用し、ページ数や行番号などを用い、個々の指摘に対して修正・対応箇所を明示すること。

4) 投稿者の原稿修正期間

審査の過程で研究論文誌編集委員会より「修正」を求められた原稿を再提出するまでの期間は、審査結果「修正」の通知（e メール）を受けた日の翌日から 60 日以内とする（例、審査結果通知日：6 月 15 日・原稿再提出期間：6 月 16 日～8 月 14 日 23:59）。原稿再提出期間内に原稿が提出されない場合、投稿を取り下げたものと判断する。やむを得ない事情により期間内に再提出できない場合は、提出期間の最終日より起算して 8 日前迄（例、原稿再提出期間の最終日：8 月 14 日・申請受付締切日：8 月 7 日迄）に本誌編集委員会に文書にて理由を連絡すること。

5) 「資料（Material）」および「その他（others）」の原稿の審査

「資料」「その他」の投稿原稿は査読を行わない。訂正すべき箇所（例、キーワードが少ない）があった場合は、著者に「訂正」を求める。訂正すべき箇所がなければ、原稿は採択となる。

6) 原稿の訂正期間

「資料」「その他」の投稿原稿に対して「訂正」を求められた場合、「訂正」の通知（e メール）を受けた日の翌日から 10 日以内（例、訂正通知日：9 月 1 日、訂正期間：9 月 2 日～9 月 11 日 23:59）に、訂正した原稿を再提出すること。訂正期間内に再提出されない場合は、原稿の採択を保留する。

7) 原稿分類の変更

研究論文誌編集委員会は原稿審査の結果および過程において、投稿者の希望する投稿分類と異なる種類で再提出の指示、および採択を決定する場合がある。原稿の

種類変更に当たっては、投稿者に了解を求める。

8) 原稿受理日

研究論文誌編集委員会が原稿の採択を決定した日をもって受理日とする。

9) 原稿受理日以降の取り扱い

採択が決定した原稿は、原則的に著者の意思で内容変更や原稿の取り下げを行うことができない。研究論文誌編集委員会は、二重投稿、アイデアやデータの盗用、データの改ざんや捏造などの研究上の不正を発見した場合は、原稿の掲載を取り消すことができる。

7.4. 論文等の掲載日

一般社団法人大学ゴルフ授業研究会の公式ホームページ（<https://daigaku-golf.org/g-challenge>）に、受理された論文等が掲載された日をもって論文等の掲載日とする。

8. 掲載料

筆頭投稿者が一般社団法人大学ゴルフ授業研究会の世話人（会員）である場合は、掲載料は無料となる。筆頭投稿者が非世話人（非会員）である場合は、「論文」、「報告」、および「授業アイデア提案」は一万円（税抜）を、「資料」および「その他」は五千円（税抜）を掲載料として大学ゴルフ授業研究会研究論文誌編集委員会に支払うものとする。ただし、「その他」において、研究論文誌編集委員会の依頼により作成された原稿は、掲載料の負担を求めない。掲載料の請求は、原稿の受理時に筆頭著者に対して通知する。掲載料の納入が必要な場合において、掲載料の支払いがない時は、受理原稿の掲載を保留する。

9. 原稿の校正

校正は、原則として初校に限り著者が行う。校正に際して、著者が訂正できるのは印刷上の誤りや誤字脱字程度であり、それ以外的大幅な修正や新たな加筆、図版の修正は認めない。また、校正の段階で著者名の追加および削除、順番の変更はできない。再校以降の校正は研究論文誌編集委員会で行う。

10. 別刷

採択された論文等の筆頭著者には、別刷のPDFファイルを送付する。印刷された別刷は、本誌では作成しない。

11. 著作権

11.1.

本誌に掲載された論文等の著作権は、一般社団法人大学ゴルフ授業研究会に帰属する。

研究論文誌編集委員会は著者に対して、原稿受理日に「著作権譲渡契約書」の PDF ファイルをメールにて送付する。最終原稿提出時に「著作権譲渡契約書」に記入・捺印したものを PDF ファイル化し、メールにて本誌編集委員会に提出する。

11.2.

著作者は原則として、掲載された自分の論文等の全文または、その一部を複製あるいは翻訳・翻案などの形で他の著作物に利用できる。全文複製にて他の著作物に利用する場合、その旨を研究論文誌編集委員会に伝え許諾を得なければならない。それ以外の利用の場合、著作者はその著作物の中で本誌に掲載された論文等の利用であることを正しく明記しなければならない。

11.3.

本誌に掲載された論文等の複製あるいは転載の必要性が生じた場合には、研究論文誌編集委員会の判断により、一般社団法人大学ゴルフ授業研究会が著作者に代わって許諾することがある。

11.4.

本誌に掲載された論文等の著作物は機関誌の発行以降であれば、一般社団法人大学ゴルフ授業研究会の許諾なしに著作者の論文等を著作者個人のホームページや SNS 上、もしくは著作者の所属する組織のホームページ等に掲載することができる。この場合、論文等の内容は、本誌に掲載された全文が改編されることがなく、かつ原本が本研究会の出版物であることを明示すること。

11.5.

本誌に掲載された論文等の内容が、第三者の著作権を侵害する場合には、その論文等の著作者がその責任を負うものとする。

12. 倫理

ヒトを対象とした研究は、ヘルシンキ宣言の趣旨に準拠し、倫理的配慮のもとに実施するものとする。

13. 問い合わせ先

一般財団法人大学ゴルフ授業研究会 研究論文誌編集委員会

〒859-3298 長崎県佐世保市ハウステンボス町 2825 - 7

長崎国際大学 研究棟 306

高橋 憲司 研究室内 yukkesuki.kenji@gmail.com

(大学ゴルフ授業研究会 問い合わせページ : <https://daigaku-golf.org/contact>)

ゴルフ教育研究

第 6 巻第 2 号

2021 年（令和 3 年）2 月 21 日 発 行

発行者：大学ゴルフ授業研究会

編集事務局：〒859-3298 長崎県佐世保市ハウステンボス町 2825-7

長崎国際大学 研究棟 高橋憲司（306）研究室

TEL：0956-20-5528

E-mail：yukkesuki.kenji@gmail.com